

活動名	遺伝子組み換え技術について考える
代表者氏名・所属	片桐沙弥：理学部生物学科2年
構成員氏名・所属	栗原綾花：理学部生物学科1年 池田由利子：理学部生物学科2年 大土井実郁：理学部生物学科2年 高島凧紗：理学部生物学科2年 山岸潮音：理学部生物学科2年 片桐沙紀：理学部生物学科3年

今回は、遺伝子組み換え作物の安全性にテーマを絞り、講演会とディスカッションを行いました。会は2017年10月10日の16時40分から18時40分、共通講義棟1号館101号室で開催致しました。講演には農研機構から田部井豊先生をお招きし、生物学科の1年生と2年生を中心に9人の学部生と人間生活学科の教授が参加致しました。



講演会では、作物の品種改良を知ること、遺伝子組み換えは安全か、新しい育種技術等のテーマで遺伝子組み換え作物について学びました。その後のディスカッションでは、学生のグループを3つ作り、遺伝子組み換え作物についてどう思うかについて話し合いました。

会終了後、参加者からは「参加する前には遺伝子組み換え作物についてどのように考えていたか」に関しては、「食糧問題の解決につながる技術」、「人体への影響はわからないが、摂取するのはどちらかという良くないもの。」等、肯定的な意見と否定的な意見が両方ありました。「参加した後で遺伝子組み換え作物についてどのように考えるようになったか。」という質問に関しては、「(先日別の講演をきいていたので) 変わらない。ただ、「不安情報」に関してはもっと自分で調べてみようと思った。」、「個人的には食べたいと思う。専門知識がある人となない人との壁が厚い問題な気がした。」とこちらも肯定的な意見と否定的な意見がありましたが、遺伝子組み換え作物について知る必要があるという意見が印象的でした。

また、会の感想として、「生物学系の授業の中ではディスカッションを行うことがないので、意見交換できて良かった。また、法学系の勉強をしている人もいたので、社会との関わりも考えられて良かった。」、「講演だけで無く、ディスカッションがあり面白かった。」という意見がある一方、「もう少し、生物の知識がない方の参加があったほうが良かったと思う。」という意見もあり、ある程度は会の目的が達成出来たものの、生物学科以外



の学生の参加者が少ないという参加者の学科構成に偏りがあり、学科間を越えたコミュニティの形成という目標の達成には不十分だったと思います。アンケート結果では、本企画を友人、知人から聞いた、が最も多く、チラシと授業での宣伝、が続きました。これは会のタイトルや宣伝方法に原因があり、もっと気軽な会であることを宣伝で伝えきれなかったことに原因があったと考えています。ただ、1年生から3年生までの学生がディスカッションできたことは良かったと思います。